

編集後記

今月の特集は、「COVID-19時代の眼科診療」です。既にこのテーマは、いろいろな雑誌で取り上げられています。そこで、本誌では、眼科のサブスペシャリティーごとに現状を語ってもらい異なる視点でこの問題に切り込んでみました。飛沫感染リスクが専門分科により異なるのが良くわかり興味深いですが、現状の問題への悲鳴はどれも同じようです。

総説は、遺伝性視神経症です。まれな疾患ではありますが、私たちは最新の知見を吸収する必要があると思います。遺伝子治療が本格化するのには、間違いなくそう遠くはなく、患者さんに質問されることもあるかもしれません。

また、歴代の『眼科』編集委員である三村先生の投稿された原著論文「眼瞼痙攣に対する遮光レンズの有効性」は、先生の莫大な臨床経験に基づくものであり、常に臨床問題に取り組む姿勢に感嘆せざるを得ません。対照群を置いた前向き研究であり、眼瞼痙攣患者ではその羞明の軽減に遮光レンズは有効であった、遮光レンズのみで眼瞼痙攣の患者さんが満足してくれる可能性に言及しているとても興味ある内容です。

白内障手術のトラブルシューティングもいつも楽し

みな項目です。今回、IOLの前囊キャプチャーの仕方について書かれています。個人的には、この方法は簡便で合併症も少なく、愛用している術式です。さらに、症例報告もまれな疾患ですが、質の高い詳細な報告が正確にされていて必読です。

先日、コロナワクチンの2回目の接種を終えました。これから接種される先生もいるかと思います。私自身は数日倦怠感が続きました。このことを、通っている近くのスポーツクラブでたまたま話をすると、インストラクターのお兄さんや年老いたおじいさん、皆さん聞き耳を立ててきました。近頃“あたらしい日常”を推奨する話題がしばしばありますが、マスクをしながらスポーツクラブの屋内を走るなんていうとても不健康で変わった光景がむしろ日常に見えてくるこの時世、私は到底馴染めない派です。

最近Webの良さを強調する向きが多く、確かにその効率性は、学会のオンデマンド配信を見ると良くわかります。ただ、非効率性の一見無駄ともいえる時間になかに、ふとしたひらめきや思いつきがあり、サイエンスのような創造性を必要とする分野には必要なことのように思います。

(門之園一明・記)

編集：富田剛司・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸・坪田一男

「眼科」 第63巻 第5号 5月号

2021年5月5日発行（毎月1回5日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間講読料金

定価 46,310 円（本体 42,100 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。